平成24年を振り返って

平成24年を振り返りますと、23年３月11日の東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所における放射能飛散による甚大な被害がありました。しかし、各方面の尽力により復興が徐々に進みつつありますが、未だに現地では除染が行われており、畜産農家への影響は計り知れないものとなっております。

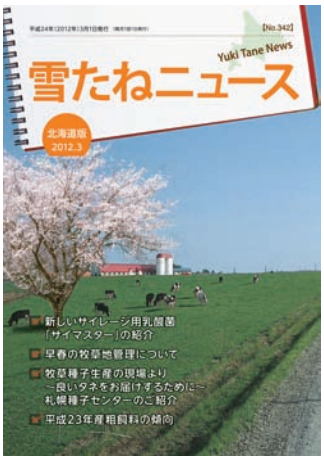
北海道におきましても、その影響が払拭されないでおり、東電よりの賠償支払いが遅れて畜産経営を圧迫しております。また、欧米諸国での旱魃等により穀物の在庫量が下方修正され、大豆粕、とうもろこしを中心として価格高騰が顕著で、畜産農家へ供給させて頂いている配合飼料も10月に大幅な値上げを余儀なくされました。また、１月以降の価格は不透明ではありますが、安定基金の財源枯渇が心配されており、日本飼料工業会を中心として対応策を検討している所です。

今年も気象変化が激しい年であり、春の低温により作物の生育も心配されておりましたが、８月以降の高温により回復傾向にありましたが、台風15号の影響により、一部の地域でとうもろこしの倒伏があり、冬季の粗飼料不足が心配されるところです。

北海道の生乳生産量を見ましても６月までは、22年、23年を下回った傾向で推移しておりましたが８月より酪農家皆様が暑熱対策等に注力頂き回復の傾向を示し、４～９月の生乳生産量は前年比で約28千トン多い1,933千トン（1.5%増加）になっておりますが、生産者戸数では225戸減少しており6,448戸となっており、依然として酪農家戸数の減少に歯止めが掛からず３～５年後には６千戸を割ることも予想されます。

その様な状況下において弊社は生産コスト低減のため飼養管理面、良質自給飼料生産のお手伝いをさせて頂いております。その中でも簡易更新による植生改善に注力し、良質サイレージ確保のためのサイレージ用乳酸菌「サイマスター」はご使用頂きました皆様から好評を得ております。

また、穀物高騰に備えアルファルファ「ケレス」の作付け、とうもろこしの作付けを推奨しております。特に近年の異常気象によるとうもろこしの病害（すす紋病、根腐病等）の発生が多く報告されており、弊社研究農場において病害に強い品種の作出に注力しておりますが、もし根腐病の発生が疑われた場合においては早期の収穫に努めて頂いている所であります。

24年度も残すところ僅かとなりましたが、弊社製・商品のご愛顧に感謝申し上げますとともに、25年の輝かしい新春をご家族ともども迎えられます事を祈願いたします。

（取締役北海道統括支店長　橋場　義孝）